No. 5-02

ごんの秋まつり運営業務

<table>
<tr><td>事業分野</td><td colspan="3">観光振興</td><td>協働の形態</td><td colspan="2">事業共催</td></tr>
<tr><td rowspan="3">実施主体</td><td>行政</td><td colspan="6">市民経済部観光課、新美南吉記念館</td></tr>
<tr><td>協働相手</td><td colspan="6">矢勝川の彼岸花を守る会、NPO 法人りんりん　など</td></tr>
<tr><td rowspan="2">（内訳）</td><td>市民</td><td>地域コミュ</td><td>活動団体</td><td>ＮＰＯ法人等</td><td>事業者</td><td>教育機関</td></tr>
<tr><td>一人</td><td>約１団体</td><td>約 10 団体</td><td>約７団体</td><td>約７者</td><td>一校</td></tr>
<tr><td>実施期間</td><td colspan="3">平成 20 年度から継続</td><td>過去３年間
平均予算額</td><td colspan="2">5,628 千円</td></tr>
<tr><td>協働のゴール</td><td colspan="6">矢勝川の彼岸花の保全と南吉作品等半田市の魅力を知っていただく。</td></tr>
<tr><td>ポイント</td><td colspan="6">新美南吉作品に登場する情景を、実際に見ることができる。
ワークショップ等幅広い世代が楽しむことのできるイベントを開催することで、新美南吉作品等の魅力に触れることができる。</td></tr>
</table>

協働に至る経緯と背景

平成 20 年度より、岩滑地区の諸団体や半田市観光協会と半田市の活性化を目標とし、秋の風物詩である彼岸花に焦点を当て、童話の村秋まつり実行委員会を組織した。その後「童話の村秋まつり」を４年間開催したのち、新美南吉生誕１００年を機に名称を「ごんの秋まつり」へと変更し、以後現在に至るまで継続的に開催をしている。

当初は、半田市、半田商工会議所、半田市観光協会、岩滑地区の方々が実行委員会の主たる委員だったが、開催を重ねるごとに、実行委員会への参加者が増え、周辺の事業者、活動団体等に参加していただくことにつながり、開催時期には周辺事業者が休憩所として、飲食の提供等を行っている。

事業内容と行政・協働相手それぞれの事業への関与の仕方

行政はイベント開催に必要な手続き等を行い。会場周辺の警備や誘導、観光案内などの受け入れ体制の整備、具体的な実施内容の検討・調整については、委託先業者である半田市観光協会が行っている。

その他の事業については、実行委員会参画団体・事業者が新美南吉や彼岸花をテーマに自主的に活動を行い、来訪者へのおもてなしを行なっている。

矢勝川の彼岸花を守る会は、１年を通して、矢勝川周辺の草刈り、球根の株分け等の活動を行い、彼岸花の生育を見守っている。

協働相手からの意見・評価
・イベント開催時期になると地域一体となりおもてなしする体制が整えられている。 ・年間を通して活動している団体の活動によって彼岸花の景観が保持されている状況である。しかし、高齢化による担い手不足等多くの課題が多くあり、ごんの秋まつり実行委員会が年間通して活動し景観保持等の役割を担うべきではないかという意見もある。
受益者からの意見・評価
・新美南吉の作品に登場する景色を文字だけでなく、目で見ることができて感動した。 ・秋の風物詩として、毎年楽しみにしている。今年も見れてよかった。 ・近くの民間駐車場になかなか止めれずに困った。
協働して良かった点や成果、及び今後の課題・展望
行政だけでは知り得ない情報や地域内の交渉、課題解決など、協働相手がいるからこそ成り立つことが多くある。開催を重ねる中で、ごんの秋まつりに携わる人も増え、周辺事業所や、市民の彼岸花・新美南吉に対する思いの醸成も進んでいる。 知名度向上によって来場者が多くなる中、駐車場問題等が発生し、渋滞につながっているため、行政が実施する秋季観光周遊バスへの誘導方法が課題である。 また実行委員会の構成団体の高齢化が進んでおり、どう次の世代に繋いでいくか、どう関わる人を広げていくかが課題となっている。

活動の様子（写真、チラシ等）

委員会総括評価
・地域・ＮＰＯ・観光協会・行政等が構成する実行委員会により、民間主導で 10 年以上にわたり協働事業として実施されていること、さらには開催を重ねるごとに実行委員会への参加団体が増え、新美南吉作品の魅力を伝え広げるための多彩な取組が行われていることで、リピーターも含め多くの方が来場する半田市を代表する催事となり、新美南吉顕彰に大きく貢献しており、多様な主体による協働の良い効果が十分活かされている点で評価できる事業です。
助言・提言
①地域の関わり方の新たなフェーズ ・「ごんの秋まつり」の舞台となっている岩滑地区では、約 30 年前に有志の市民による新美南吉の顕彰事業として、彼岸花の植栽によるふるさとの風景づくりがスタートし、現在は主に地域の力により半田市を代表する美観が維持されていますが、この風景を次世代に残していくために、地域とともに、新美南吉のふるさとの風景の未来のイメージを描き出す機会を創出してみてはいかがでしょうか。 ②新美南吉のふるさとの風景を維持するための仕組みづくり ・「ごんの秋まつり」に参加する市民活動団体等と、今一度、事業の主旨の相互理解を深めるとともに、まつりの事前準備として、彼岸花の環境整備をうまく組み込む仕組みづくりを検討してみてはいかがでしょうか。